

環境経営活動レポート

2023年度

対象期間 2023年6月～2024年5月

株式会社 小柳技建

発行日：2024年7月1日



株式
会社

小柳技建

目 次

◆ 組織概要	1
◆ 認証・登録の対象範囲	1
◆ 環境経営方針	2
◆ 実施体制	3
◆ 環境経営目標	4
◆ 環境経営計画	5
◆ 環境経営目標の実績	6
◆ 環境経営目標及び環境経営計画の取組結果とその評価、 次年度の取組内容	7
◆ 環境関連法規等の遵守状況及び確認 及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	9
◆ 代表者による全体評価と見直し	10

組 織 概 要

- ◆ 事 業 所 名 / 株式会社 小柳技建
- ◆ 代 表 者 名 / 代表取締役 富澤善和
- ◆ 所 在 地 / 本 社 : ☎ 812-0043 福岡市博多区堅粕3丁目15番31号
粕屋営業所 : ☎ 811-2244 糟屋郡志免町志免中央4丁目15番35号
- ◆ 環境管理責任者 / 営業部 瀬戸
環境管理事務局 / 総務部
- ◆ 連 絡 先 /
 - ☎ Tel : 092-451-0055
 - ☎ FAX : 092-451-0079
 - ✉ E-mail : info@koyanagigiken.co.jp
 - 🌐 URL : <http://www.koyanagigiken.co.jp>
- ◆ 事 業 内 容 / 建築・土木工事の設計・監理・施工、
一級建築士事務所業務
- ◆ 許 可 番 号 / 建 設 業 許 可 : 福岡県知事許可(特一4)第10938号
一級建築士事務所許可 : 福岡県知事登録(1)第10722号
- ◆ 創 業 / 昭和52年2月
- ◆ 事 業 規 模 / 従 業 員 数 : 6人
事 務 所 床 面 積 : 89.30㎡
粕屋営業所床面積 : 40.00㎡
- ◆ 対 象 期 間 / 6 月 ~ 翌年 5 月

認 証、登 録 の 対 象 範 囲

- ◆ 対 象 活 動 / 建築、土木工事の設計、監理、施工
一級建築士事務所登録
- ◆ 対 象 事 業 所 / 本社・粕屋営業所

環境経営方針

<企業理念・行動指針>

当社は、ますます深刻化する地球温暖化や今後予想される地下資源の枯渇への対応が重要であると考えます。建設業を行う企業として事業活動が地域及び地球環境に与える影響について配慮し、社員全員が環境保全への思いを行動に移すことにより、環境負荷の低減を図り、未来の世代のため無理・無駄・ムラのない持続可能な活動に継続的に取り組めます。

1 環境への負荷を軽減するため、環境目標及び環境活動計画を作成し以下の取組を行います。

- ① 環境に配慮した製品の使用、省エネ及び節電による二酸化炭素排出量の削減
- ② 建設リサイクル法に則った資材の有効活用及び廃棄物の分別と適切なリサイクルによる廃棄物排出量の削減
- ③ 節水等による水使用量の削減
- ④ 化学物質の適正使用及び適正管理
- ⑤ グリーン購入の推進
- ⑥ 環境に配慮した建物の提案、設計、施工
- ⑦ 工程・安全・品質管理の強化
手戻り・手直し工事を極力減らすよう工事管理の徹底

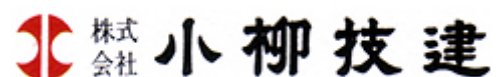
2 関係する環境関連法規等を遵守します。

3 環境方針は全社員に周知し、環境保全活動を推進します。

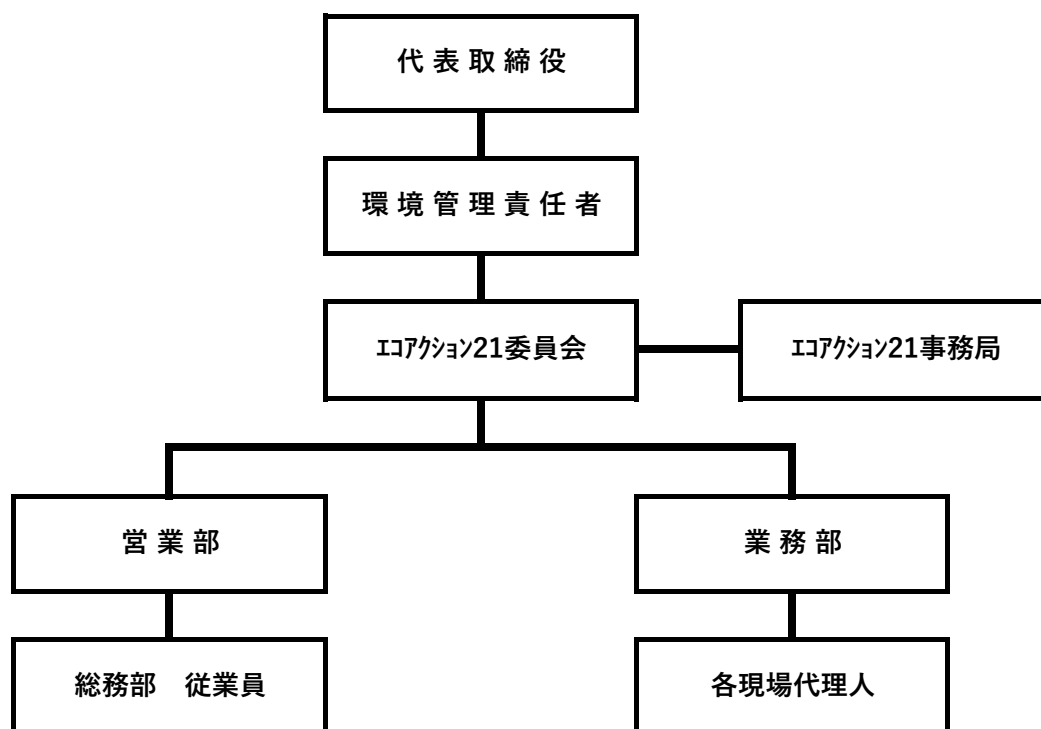
2014年 8月 7日（制定）

2021年 3月 2日（改定）

代表取締役 富澤善和



実施体制



◆ 役割分担表

所 属	役 割 ・ 責 任 ・ 権 限
代 表 者	- 代表者として環境経営全般について責任と権限を持つ - 環境方針を作成・見直し、従業員に周知する - 環境管理責任者、エコアクション21事務局員を任命する - 環境への取組を実施するための資源(人・物・金)を準備する - エコアクション21全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する
環境管理責任者	- 環境経営システムを構築し、実行・維持する - 環境経営目標、環境経営活動計画を作成する - 取組結果を代表者へ報告する
エコアクション21委員会	1ヵ月に1回開催し、環境目標及び環境活動計画の実施状況を審議する
エコアクション21事務局	- 環境管理責任者を補佐し、エコアクション21文書の作成・維持・集計・管理を行う - 社外からの環境状況の収集と伝達を行う
部 門 長	- 環境経営目標達成の為、自部門の環境経営活動を推進する - 自部門で発生した問題点の是正処理、予防処理を実施する - 自部門に関連する法律規制等を遵守する - 自部門に関連する緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する - 自部門の教育訓練を実施する
全従業員	- 環境経営方針の理解と環境経営への取組の重要性を自覚する - 定められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動に参加する

環境経営目標

				基 準 年	中 ・ 長 期 目 標					
環 境 目 標 項 目				区分	単位	2015年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
						(実 績)	(前年1%削減)	(前年1%削減)	(前年1%削減)	(前年1%削減)
						2015.6～2016.5	2021.6～2022.5	2022.6～2023.5	2023.6～2024.5	2024.6～2025.5
1	二酸化炭素排出量の削減			全体	kg - CO ₂	28280.7	26625.7	26359.4	26095.8	25834.8
				事務所	kg - CO ₂	23005.4	21659.1	21442.5	21228.1	21015.8
				現 場	kg - CO ₂	5275.3	4966.5	4916.8	4867.7	4819.0
	① 電気使用量の削減			事務所	kWh	14459.0	13612.9	13476.8	13342.0	13208.6
				現 場	kWh	7154.0	6735.4	6668.0	6601.3	6535.3
	② 化石燃料使用量の削減		ガソリン	事務所	ℓ	6073.0	5717.6	5660.5	5603.9	5547.8
			LPG		kg	13.9	13.2	13.0	12.9	12.8
			ガソリン	現 場	ℓ	338.80	318.9	315.7	312.5	309.4
2	廃棄物排出量の削減									
	一般廃棄物排出量の削減			事務所	kg	170	160.1	158.5	156.9	155.3
	産業廃棄物リサイクル率の100%維持			現 場	%	100	100.0	100.0	100.0	100.0
	産業廃棄物の排出量の把握			現 場	-	実績の把握	実績の把握	実績の把握	実績の把握	実績の把握
3	水使用量の削減			事務所	m ³	57.0	53.8	53.2	52.7	52.2
				現 場	m ³	97.64	92.0	91.1	90.1	89.2
4	化学物質の把握と適正管理			現 場	物件	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
5	グリーン購入の推進			事務所	-	51.3	優先購入	優先購入	優先購入	優先購入
				現 場	-	35.7	優先購入	優先購入	優先購入	優先購入
6	環境に配慮した工事の提案、設計、施工			現 場	物件	2	3	3	3	3
7	手戻り・手直し工事抑制のための工事管理の徹底			現 場	物件	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理

【備考】

- ・ 二酸化炭素排出量の計算は九州電力㈱の2021年度調整後二酸化炭素排出係数（0.389kg - CO₂/kWh）を使用しました。
- ・ 区分の【事務所】は本社と粕屋営業所、【現場】は各現場とします。
- ・ グリーン購入の推進目標を、2018年度より購入割合【%】から【優先購入】へと変更しました。

環境経営計画

1 二酸化炭素排出量の削減

※ 活動期間については、すべて「通年」となっております。

取組目標		区分	達成手段
1	電気使用量の削減	事務所	1 昼休み時間の消灯
			2 照明器具・エアコンの定期清掃や適正管理
			3 エアコンの適温調整
		現場	1 昼休み時間の消灯
			2 エアコンの適温調整
2	ガソリン使用量の削減	事務所	1 エコドライブの推進
		現場	1 エコドライブの推進
			2 倉庫の一括利用で無駄な走行を減らす
			3 エコカーの導入などの車両の見直し

2 廃棄物排出量の削減

取組目標		区分	達成手段
1	一般廃棄物排出量の削減	事務所	1 コピー用紙の両面使用
			2 共有フォルダを使った印刷物の削減
			3 ゴミの分別によるリサイクルの徹底
2	産業廃棄物リサイクル率の向上	現場	1 マニフェストによる適正管理
			2 ゴミの分別によるリサイクルの徹底

3 水使用量の削減

取組目標		区分	達成手段
1	水使用量の削減	事務所	1 節水ラベルの掲示
			2 散水ホースの先にストッパーを取り付ける
		現場	1 節水ラベルの掲示
			2 散水ホースの先にストッパーを取り付ける

4 化学物質の適正使用及び適正管理

取組目標		区分	達成手段
1	化学物質の適正使用及び適正管理の徹底	現場	1 使用する材料のSDSを現場事務所及び作業員の休憩所で閲覧できるようにする

5 グリーン購入の推進

取組目標		区分	達成手段
1	再生資源の購入	事務所	1 コピー用紙や文房具などはグリーンマーク製品を優先して購入する
		現場	1 工事現場での建築資材や備品は再生材製品を優先的に購入し、使用する

6 環境に配慮した提案、設計、施工

取組目標		区分	達成手段
1	環境に配慮した建物の提案、設計、施工の推進	現場	1 エコ給湯システム設置の提案の推進
			2 LED照明設置の提案の推進
			3 太陽光発電システム設置の提案推進

7 手戻り・手直し工事抑制のための工事管理の徹底

取組目標		区分	達成手段
1	手戻り・手直し工事抑制のための工事管理の徹底	現場	1 発注者の要求事項を明確にする
			2 日常の施工状況の細かなチェック
			3 定例会などでの協力業者への指示

環境経営目標の実績

二酸化炭素排出量の計算は九州電力㈱の2021年度調整後二酸化炭素排出係数（0.389kg・CO₂/kWh）を使用。

区分の【事務所】は本社と粕屋営業所、【現場】は各現場とします。

グリーン購入の推進目標を、2018年度より購入割合【％】から【優先購入】へと変更しました。

※ 目標値の95％以上については、達成状況は○とします。

				2023年度（2023.6～2024.5）					
環 境 目 標 項 目			区分	単位	目標	実績	達成 状況	（参考） 結果の評価 前年度実績	
1	二酸化炭素排出量の削減		全体	kg - CO ₂	26095.80	13108.02	○	前年より減少	16916.95
			事務所	kg - CO ₂	21228.10	12876.61	○	前年より減少	14762.53
			現 場	kg - CO ₂	4867.70	231.41	○	前年より大幅に減少	2154.42
	①電気使用量の削減		事務所	kWh	13342.00	8501.00	○	前年より減少	9164.00
			現 場	kWh	6601.30	25.00	○	前年より大幅に減少	3354.00
	②化石燃料使用量の削減	ガソリン	事務所	ℓ	5603.90	4120.87	○	前年より減少(社用車1台乗り換え)	4820.46
		LPG		kg	12.900	3.105	○	前年より減少	4.761
		ガソリン	現 場	ℓ	312.50	95.55	○	前年より減少	263.04
		LPG		kg	-	-	-		
2	廃棄物排出量の削減								
	一般廃棄物排出量の削減		事務所	kg	156.9	77.630	○	前年より減少	114.82
	産業廃棄物リサイクル率の100%維持		現 場	%	100	100	○	分別の徹底により、目標達成	100
3	水使用量の削減		事務所	m ³	52.7	31.5	○	前年を下回ることができた	43.00
			現 場	m ³	90.1	0.00	○	支給の現場のみのため	92.98
4	化学物質の把握と適正管理		現 場	物件	適正管理	適正管理	○	規模の大きい現場はSDSにて管理	
5	グリーン購入の推進		事務所	-	優先購入	優先購入	○	該当する品目がある程度把握できた	
			現 場	-	優先購入	優先購入	○	優先できるものはしっかり検討できた	
6	環境に配慮した工事の提案、設計、施工		現 場	物件	3	3	○	LED化や節水タイプの衛生機器などを提案	
7	手戻り・手直し工事抑制のための工事管理の徹底		現 場	物件	適正管理	適正管理	○	極力発生しないよう工事管理の徹底	

環境経営目標及び環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

1 二酸化炭素排出量の削減

※次年度の環境経営目標は、中期環境経営目標に記載しています。

取 組 目 標		区 分	達 成 手 段	状 況
1	電気使用量の削減	事務所	昼休み時間の消灯	○
			照明器具・エアコンの定期清掃や適正管理	○
			エアコンの適温調整	○
		現 場	昼休み時間の消灯	○
			エアコンの適温調整	○
	評 価 ・ 次 年 度 の 取 組 内 容 等			
昼休みや業務時間の不必要な箇所等の消灯は徹底してなされている。 夏季及び冬季のエアコン使用時の温度管理もきちんとなされている。				
2	ガソリン使用量の削減	事務所	エコドライブの推進	○
		現 場	エコドライブの推進	○
			倉庫の一括利用で無駄な走行を減らす	○
			エコカーの導入などの車両の見直し	○
	評 価 ・ 次 年 度 の 取 組 内 容 等			
	社用車を1台乗り換えた。(普通自動車⇒ハイブリッド車) 設備投資時には環境に配慮したものを今後も選んでいきたい。			

2 廃棄物排出量の削減

取 組 目 標		区 分	達 成 手 段	状 況
1	一般廃棄物排出量の削減	事務所	コピー用紙の両面使用	○
			共有フォルダを使った印刷物の削減	○
			ゴミの分別によるリサイクルの徹底	○
	評 価 ・ 次 年 度 の 取 組 内 容 等			
再資源化ゴミ（段ボール・紙・ペットボトル等）は各自極力排出しないよう心がけている。				
2	産業廃棄物リサイクル率の向上	現 場	マニフェストによる適正管理	○
			ゴミの分別によるリサイクルの徹底	○
	評 価 ・ 次 年 度 の 取 組 内 容 等			
	事務所においてもマニフェストの徹底管理がなされている。現場の排出管理もなされている。 次年度も継続的に取り組んでいきたい。			

3 水使用量の削減

取 組 目 標		区 分	達 成 手 段	状 況
1	水使用量の削減	事務所	節水ラベルの掲示	○
			散水ホースの先にストッパーを取り付ける	○
		現 場	節水ラベルの掲示	○
			散水ホースの先にストッパーを取り付ける	○
		評 価 ・ 次 年 度 の 取 組 内 容 等		
		各自事務所及び現場において、最低限の使用をこころがけている。 次年度も事務所・現場ともに、可能な限り節水に努めていきたい。		

4 化学物質の適正使用及び適正管理

取 組 目 標		区 分	達 成 手 段	状 況
1	化学物質の適正使用及び適正管理の徹底	現 場	発注先への適正管理の徹底を行う。規模の大きな現場はSDSにて確認	○
	評 価・次 年 度 の 取 組 内 容 等			
	しっかりと管理がなされ、適正に使用されている。 次年度も継続的に取り組んでいきたい。			

5 グリーン購入の推進

取 組 目 標		区 分	達 成 手 段	状 況
1	再生資源の購入	事務所	コピー用紙や文房具などはグリーンマーク製品を優先して購入する	○
		現 場	工事現場での建築資材や備品は再生材製品を優先的に購入し、使用する	○
	評 価・次 年 度 の 取 組 内 容 等			
	グリーン購入確認表の提出が定着してきた。 より一層の内容把握と、取組の推進を行っていききたい。			

6 環境に配慮した提案、設計、施工

取 組 目 標		区 分	達 成 手 段	状 況
1	環境に配慮した建物の提案、設計、施工の推進	現 場	エコ給湯システム設置の提案の推進	○
			LED照明設置の提案推進	○
			太陽光発電システム設置の提案推進	○
	評 価・次 年 度 の 取 組 内 容 等			
	古いエアコンの取替や照明のLED化等の提案を実施。 当社のエアコン入替による電気代の変化も積極的にお客様に伝えていきたい。			

7 手戻り・手直し工事抑制のための工事管理の徹底

取 組 目 標		区 分	達 成 手 段	状 況
1	手戻り・手直し工事抑制のための工事 管理の徹底	現 場	発注者の要求事項を明確にする	○
			日常の施工状況の細かなチェック	○
			定例会などでの協力業者への指示	○
	評 価・次 年 度 の 取 組 内 容 等			
	現場でしっかりと工事管理はできている。今後も手戻り工事・手直し工事が極力発生しないよう、各現場の管理を徹底していきたい。			

<その他の取組について>

事務所から排出される再資源化ごみは、「福岡リサイクルベース」に出している。
 (シュレッダーにかけた重要書類等を含む)
 その他再資源ごみについてもリサイクルを徹底している。
 3Rを全従業員が意識して業務にあたっている。

環境関連法規等の遵守状況及び確認

及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

- ・ 当社の事業活動に適用される環境関連法規等は次のとおりです。
- ・ 2023年7月1日に下記の環境関連法規等の遵守状況を確認・評価した結果違反等はありませんでした。
- また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

適用される関連法規等	適用される事項（施設・物質・活動等）
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 （廃棄物処理法）	事業系一般廃棄物の適正処理 産業廃棄物の適正処理（マニフェストの管理） 特別管理産業廃棄物
建設工事に係る資材の再資源化に関する法律 （建設リサイクル法）	特定建設資材の再資源化の報告と記録
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律 （オフロード法）	現場で使用する該当建設機械
騒音規制法	特定建設作業の届出
振動規制法	特定建設作業の届出
使用済自動車の再資源化等に関する法律 （自動車リサイクル法）	事務所管轄の該当自動車
特定家庭用機器再商品化法 （家電リサイクル法）	事務所管轄の特定家庭用機器
建築基準法	特定建設作業の基準
グリーン購入法	環境物品等の購入
福岡市グリーン購入ガイドライン	福岡市が重点的に推進する環境物品等の購入及び使用をするよう努める
フロン排出抑制法	解体現場等でのフロン類の回収
大気汚染防止法	解体工事等における調査及び作業手順 石綿等の処理について

代表者による全体評価と見直し

『全体評価』

社用車を1台、ハイブリッド車に乗り換えた。

夏季及び冬季のエアコン使用については、体調管理に支障をきたさない程度に実施すること。

事務所においてはコピー用紙の裏紙使用、テプラのカートリッジの回収、使用済み電池等の回収など、「3R」を実践することができている。

現場においては資材等の購入についても「必要なものを必要なぶんだけ」「在庫を把握と管理」の徹底がなされている。

『見直し』

目標値の設定変更やSDGsをより盛り込んだ内容への変更など、現状の取り組みのまま文書や数値、表現の変更を実施できる体制を整えていきたい。

緊急事態の対応については、現在の気候変動をふまえ

(事務所)

- ・大雨による浸水・停電・台風、大雪などへの対応(出勤方法含む)

(現場)

- ・熱中症対策とその対応
- ・台風の接近等に対する現場の対策

など、さまざまなケースを想定して毎年行っていきたい。